KOSÉ
KOBAYASHI
FOUNDATION

NEWS RELEASE

KOSÉ

2026.11.27

公益財団法人コーセー小林財団
コスメトロジー研究助成事業　第 37 回　表彰・贈呈式を開催
来期より次世代を担う研究者を継続支援する事業を新設

公益財団法人コーセー小林財団（所在地：東京都中央区、理事長：小林　正典）は、2026 年 11 月 26 日に当財団が研究助成を行う研究者を表彰・授賞する「コスメトロジー研究助成事業　第 37 回　表彰・贈呈式」をパレスホテル東京にて開催しました。当式では 1 名の研究者にコーセーコスメトロジー奨励賞が表彰され、32 名の研究者にコスメトロジー研究助成が贈呈されました。また、来期から次世代の優秀な研究者を継続支援する助成事業を新設することを発表しました。当財団は株式会社コーセーホールディングス（本社：東京都中央区、代表取締役社長：澁澤　宏一）が研究分野を通した社会貢献として 1990 年より支援しています。



コスメトロジー研究助成　受賞者

中央：公益財団法人コーセー小林財団　理事長　小林　正典、 **中央右**：公益財団法人コーセー小林財団　副理事長　小林　一俊



コーセーコスメトロジー奨励賞　表彰者
京都大学　神戸　大朋　氏

コーセー小林財団は、1990 年にコーセーの創業者である小林孝三郎が前身となる「コーセーコスメトロジー研究振興財団」として設立しました。その目的は、多様かつ広範な学際領域に跨るコスメトロジー（化粧品学）に関する研究へ助成を行うことにより、生活者の美しく豊かな生活の実現に寄与することです。2026 年 4

月には「コーセー小林スポーツ財団」と合併し、研究助成とスポーツ助成を行う団体として現在の名称となりました。

コスメトロジー研究助成事業の表彰・贈呈式では、近年の助成した研究の中でも特に優れた成果をあげた研究者を「コーセーコスメトロジー奨励賞」として選出しており、今年度は京都大学の神戸大朋氏を表彰しました。また、「コスメトロジー研究助成」の贈呈も実施しており、全国の大学、病院、公的研究機関からの 166 件の応募の中から、32 名の研究者に対して助成金贈呈を行いました。

■小林 正典 理事長挨拶 要旨



当財団は今年、「コーセーコスメトロジー研究財団」と「コーセー小林スポーツ財団」が合併し、「コーセー小林財団」としてコスメトロジー研究助成事業、スポーツ助成事業の二つの助成事業を行う財団となりました。引き続き当財団は、コスメトロジー研究への支援を通じて、人々の美と健康を探求し、より豊かな生活の実現に貢献してまいります。財団の設立以来、今年度までの助成件数は累計 1,098 件となり、助成金の額は累計 17 億 6 千万円となりました。本日、受賞される皆さまが、これからも新たな研究の価値を創出され、コスメトロジー研究のさらなる発展と、人々の期待に応える成果につなげていかれることを、心より願っております。

次年度からは、今後のコスメトロジー領域のさらなる発展を目的に、次世代を担う優秀な研究者を対象とした新たな助成事業を行う予定です。昨今、研究を取り巻く環境は厳しさを増しており、十分な研究活動を確保できない研究者のみなさまも多いと思います。そこで当財団では、次世代を担う研究者を支援するため、コスメトロジー研究助成の採択者の中から、今後の発展が期待される優れた研究成果を対象として、継続的に研究を支援する仕組みを導入することにいたしました。詳細につきましては、改めてご案内申し上げますが、将来のコスメトロジー研究を担う優れた研究者を継続的に支援することにより、人々の美しく豊かな生活の実現と化粧品産業のさらなる発展に貢献してまいります。

■岩橋 槇夫 選考委員会委員長 選考経過報告 要旨



コスメトロジー研究助成は、例年通り、第一分野「素材、物性に関する分野」、第二分野「生体作用、安全性に関する分野」、そして第三分野「精神、文化に関する分野」の3つの分野に分けて公募しました。その結果、今年の応募総数は3分野合わせて166件と、昨年と同じく過去最高の応募件数になりました。応募課題について、分野ごとに3つの分科会で予備選考を行い、各分野の専門委員により、研究課題の独創性・発展性・実用性と、コスメトロジーへの波及性を評価しました。予備選考の審査結果に基づいて、選考委員会で採択候補者を選出し、理事会の承認を得ながら、本日受賞される32件の研究課題を採択しました。採択率はいずれの分野でも20%を下回る、厳しい選考となりました。

今年助成を受けられる研究課題を見てみますと、第一分野では新しい発想による素材や、評価技術の開発、第二分野では生体機能の維持・改善や抗老化研究の進展が期待されるテーマが多く選ばれました。また、第三分野では、独創性に富んだ興味深いテーマが幅広い領域から採択されています。

また、次年度から始まる優秀な研究者を支援する新たな助成事業計画も理事会にて決議されました。現在コスメトロジー研究助成を受けている方のうち、次世代を担う研究者を対象に、さらなる発展が期待される優

れた研究課題に対して継続助成を行う予定です。対象年齢はコスメトロジー研究助成の応募時点で 40 歳以下とし、出産に伴う休業や育児休業の期間を考慮した年齢制限の緩和措置も設ける予定です。

参考情報

◇コーセーコスメトロジー奨励賞

2020年の本財団創立30周年にあたり創設された表彰制度で、本財団の研究助成採択者の中から、コスメトロジー研究の発展に功績があった研究者を表彰することにより、さらなる研究の進展を期待するとともに、コスメトロジー研究の学術論文による成果公表を奨励し、研究成果の社会還元の促進を目的とするものです。

第7回目となる本年度は、2018年以降の研究助成採択者を対象に、各助成課題の成果に関連する2023年以降に掲載された学術論文を審査し、特に優れた論文実績を挙げた研究者を表彰しました。

◇コスメトロジー研究助成

本助成事業では、様々な専門分野の研究者にコスメトロジー研究への参画を呼びかけ、人々の健康や美容の増進に役立ち、美しく豊かな生活の実現への貢献が期待される研究課題に対して助成を行います。

◇特定課題研究助成

特定課題研究助成は、人々の健康的で美しく豊かな生活の実現をめざして、近未来に課題解決が期待されるテーマを「特定課題」として公募し、この課題に独創的・先駆的発想をもって果敢に取り組む研究プロジェクトに対して助成を行うプログラムです。

2024年度に「細胞のリプログラミングによる若返り研究」をテーマとして公募し、4件が採択されました。

◇国際交流支援助成・学術集会支援助成

研究者の海外派遣費用や、コスメトロジーおよび関連研究の学会などの開催費用への助成を行います。

■ 2026年度 コーセーコスメトロジー研究財団 表彰・助成実績

○コーセーコスメトロジー奨励賞

表彰候補者	47 名	
受賞者	1 名	
表彰内容	表彰状および副賞 200万円	

○ コスメトロジー研究助成

応募総数	166 件	
助成件数		
1）素材、物性に関する分野	13 件	
2）生体作用、安全性に関する分野	14 件	
3）精神、文化に関する分野	5 件	計 32 件

助成金総額 6,000万円 （1件あたりの助成金額 200万円、100万円）

○ 特定課題研究助成「細胞のリプログラミングによる若返り研究」（2024年より継続）

助成件数	4 件
助成金総額	4,000万円 （1件あたりの助成金額 1,000万円、計3年間）

○ 国際交流支援助成 5 件

○ 学術集会支援助成 7 件

◇2026 年度　コーセーコスメトロジー奨励賞　受賞者（敬称略）

所属機関・氏名	研究課題
京都大学 大学院生命科学研究科 神戸　大朋	チロシナーゼ酵素群の活性化に不可欠な金属獲得の分子機序の解明 （2022 年　第 33 回コスメトロジー研究助成受賞）

◇2026 年度　コスメトロジー研究助成　受賞者（敬称略、分野別五十音順）

第1分野：素材、物性に関する分野	
所属機関・氏名	研究課題
千葉大学 大学院工学研究院 上川　直文	微粒子分散液の単回塗布による一次元フォトニック結晶膜の自発形成法の開発
産業技術総合研究所 機能化学研究部門 宇山　允人	化粧品塗布乾燥過程における塗膜形成挙動を可視化する摩擦・偏光同時分析技術の開発
名古屋市立大学 大学院薬学研究科 小川　昂輝	不安定な美容活性成分の安定化と空間的放出制御を実現する 3D プリント・ハイドロゲルの創製
佐賀大学 コスメティックサイエンス学環 櫻木　美菜	高機能スキンケアを目指したバイセルによるヒアルロン酸の層別局在制御
新潟大学 工学部 寒川　雅之	超小型触覚センサを用いた化粧品の皮膚塗布時レオロジー特性のその場解析
富山県立大学 工学部 竹井　敏	熱感受性育毛成分の毛包デリバリーを実現する、低温成形スカルプケア用ナノニードルパッチの創出
城西大学 薬学部 藤堂　浩明	ディスク状脂質粒子を用いた皮膚バリアモジュレーション機構の解明と経皮送達への応用
東北大学 多元物質科学研究所 根岸　雄一	皮膚恒常性を制御する精密金属ナノクラスターの創製とコスメトロジーへの展開
慶應義塾大学 理工学部 伴野　太祐	肌環境を認識する pH 応答性自己駆動水滴の創製と化粧品素材への展開
大阪工業大学 工学部 藤井　秀司	生体親和性ドライハイドロゲルの創製

北海道大学 大学院農学研究院 村井　勇太	酸化アシルセラミドによる皮膚バリア構築構造の解明と機能性素材への展開
東京大学 大学院薬学系研究科 森　貴裕	天然物生合成酵素を利用した抗酸化香粧品素材の創出
早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 森本　雄矢	化粧品塗布時の細胞応答を読み出す培養皮膚モデルの創出
第2分野：生体作用、安全性に関する分野	
所属機関・氏名	研究課題
北海道大学病院 今福　恵輔	ミトコンドリアが制御するタイトジャンクションの破綻機構
神戸大学 バイオシグナル総合研究センター 足立　直子	メラニン産生関連タンパク質のパルミトイル化制御に基づく新規色調調節機構の解明
岩手医科大学 解剖学講座 足立　礼孝	表情筋再生のための発生系譜解析
慶應義塾大学 医学部 勝俣　良紀	皮膚レジリエンスを支える鉄依存的脂質過酸化機構の解明と水素による予防的制御
大阪公立大学 大学院生活科学研究科 神谷　重樹	細菌性リパーゼを標的とした抗リパーゼ薬の探索
大阪大学 大学院基礎工学研究科 出口　真次	皮膚の柔軟性による細胞老化調節の分子機構の解明
京都大学 大学院薬学研究科 土居　雅夫	高齢閉経時における皮膚局所の性ステロイド産生の意義と概日時計による時間制御の介入
富山大学 学術研究部医学系 中川　崇	NAD 代謝による皮膚光老化制御機構の解明
和歌山県立医科大学 薬学部 長野　一也	物性−動態−生体応答の多角的連関解析によるミノキシジル−ソホロース脂質ナノ粒子の育毛促進作用の機序解明

大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 平塚　徹	生体ライブイメージングによる真皮微小環境ダイナミクスの可視化と皮膚老化評価基盤の構築
順天堂大学 大学院医学研究科 彭　戈	抗菌ペプチドによる皮膚血管周免疫ニッチ維持機構の解明
秋田大学 大学院医学系研究科 前田　深春	コラーゲンの分泌ゲートキーパー機構の解明
東京大学 定量生命科学研究所 松本　翔太	クライオ ET による細胞核内 DNA 修復機構の可視化と難治性皮膚疾患の分子基盤解明
岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 山崎　賢	化粧品中に含まれる発がん性ニトロソアミン類除去技術の開発
第3分野：精神、文化に関する分野	
所属機関・氏名	研究課題
東京都健康長寿医療センター 岡本 るみ子	フレイル予防のための顔面筋アイソメトリックエクササイズプログラムの開発と実行可能性の検証
宇都宮大学 工学部 何　元元	顔色情報を手がかりとした顔印象形成メカニズムの解明
東京大学 大学院工学系研究科 佐野　貴紀	デジタル美容文化における日本人の顔印象と美的信念形成
玉川大学 芸術学部 藤枝　由美子	「足す」から「引く」香りのデザインへ ― 嗅覚順応を用いた感性誘導プロトコルの開発と美術的社会実装 ―
兵庫医科大学 医学部 向井　馨一郎	美容関連情報探索行動と化粧品使用行動の適応・不適応モデルの構築 ― 身体醜形症・嗅覚関係づけ症候群と健常者の比較 ―

◇公益財団法人コーセー小林財団 Web サイト

URL： https://kose-kobayashi-foundation.or.jp/

研究助成事業の概要等を掲載しています。財団へのお問い合わせは、上記ウェブサイトよりお願いいたします。